能登半島高野山真言宗寺院の被害と復興活動 ～金沢市の寺院に於ける説明～

団体名 ● バイヤーゼミナール 人文学部専門科目「仏教と文化」
代表者名 ● バイヤーアヒム (人文学部国際文化学科・教授)

はじめに(背景・目的・目標)

令和6年能登半島地震被災地にある高野山真言宗寺院での被害と復興活動について金沢市の養智院のご住職の宮野純光様に説明を依頼しました。

活動内容

令和6年12月10日に人文学部の専門科目「仏教と文化」の受講者が教員バイヤー教授と共に野外演習として片町の養智院までおとずれ、宮野住職により寺院案内と高野山真言宗の能登半島地震後復興活動について以下のように発表頂きました。

災害の確認と登録

地震によって甚大な被害を受けた能登では、多くの寺院も被害に見舞われた。地震後に、宮野様は復興活動の一環として能登地方にある高野山真言宗のお寺を訪問した。

奥能登地区(38ヶ所):訪問35ヶ所(外周のみ5ヶ所)
口能登地区(13ヶ所):訪問6ヶ所
合計 (51ヶ所):訪問41ヶ所

寺院の事例

その51ヶ所の中でも特に被害の大きかった寺院について、事例としてお話をしていただきました。寺院の個人情報などを守るため、こちらで寺号を言及しないようにします。

輪島市の山の中腹にある寺院では、大地震、余震、土砂崩れで、ほとんどの建物が大きな被害を受けた状況になりました。元旦の大地震で本堂は正面から見て左側に大きく傾いてしまい、境内にある銅の屋根がある釣鐘堂は斜面を滑り落ち、落下してしまいました。

震災後の1週間は連絡がつかず、1月22日に初めて訪問しましたが、道路状況が壊滅的でありました。お寺までの参道は、地割れが起きており、車が通ることが出来ない状況でしたが、お寺のご住職の車が通れるように陥没した参道にお寺から運んだ畳を敷きました。

お寺から搬出できるものは協力して救出しましたが、今も埋まったままの仏様もいます。お寺の中門は、地震で崩壊してしまいましたが、そこで祀られていた平安時代の二天像は国の文化財レスキューにより救出されました。

間接損害、6月の余震害、9月の豪雨

3月には本堂の屋根が崩壊し、さらに6月の余震の影響で本堂の左側が完全に倒壊してしまいました。

9月の豪雨の後は、土砂崩れで参道の大部分が土砂で埋まっていたため、車は使えず歩いてなんとか登りました。豪雨による土砂崩れにより、住居は建物ごと飛ばされ、一階は土砂に埋まり全壊、二階だけが残りました。山から水の影響や更なる土砂崩れで境内の土地がなくなってしまう恐れがあります。

今後の課題、展望：本山等による復興支援

高野山真言宗では令和6年度能登半島地震の被災地支援に取り組んでいます。本山の金剛峯寺(こんごうぶじ)や全国の真言宗僧侶の青年会からの派遣協力を得て、被災した寺院の片付けなどを支援しています。七尾市から加賀市にかけての寺院が所属する高野山真言宗石川支所のメンバーも寺院支援のため能登に行っています。

国の文化財レスキュー事業を活用し、危険な建物から文化財を避難させるレスキュー作業や被害に遭った文化財への応急処置をしており、全国5つの仏像修復工房への依頼も行われています。

また、高野山足湯隊が組織され足湯、炊き出し、ヘアセット、整体などの支援活動が震災後12月までに12回実施され、地域の住民を支援し復興を支えています。さらに、輪島市の中学校での炊き出しや地元寺院の復旧作業にも尽力し、住民の心の再生と地域の文化財保全に貢献しています。